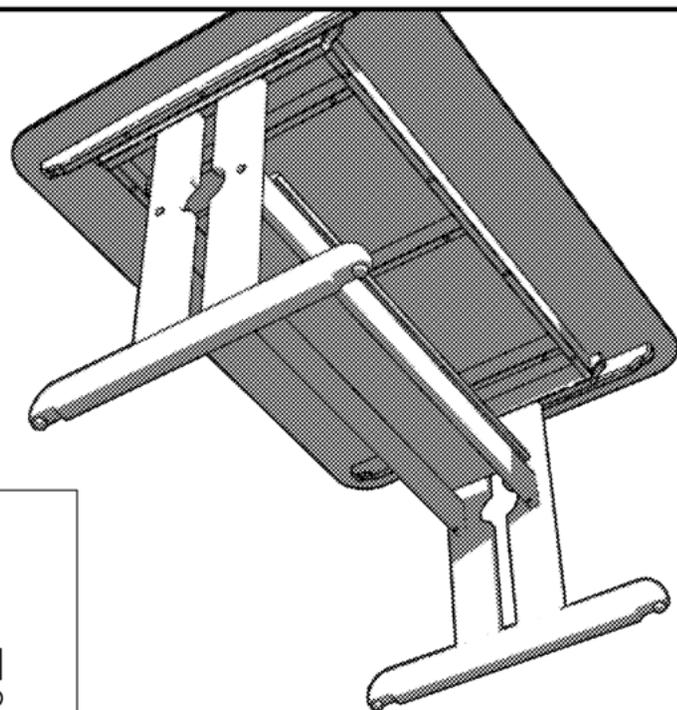


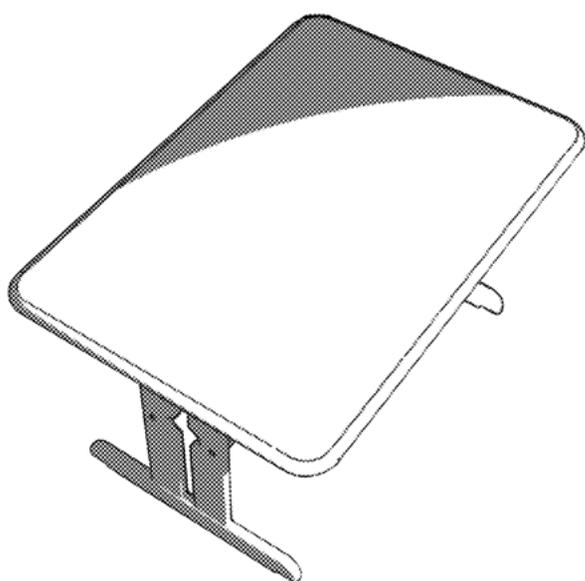
わたしが最初にいた家は、
もう取り壊されてしまったんだけど



引っ越した先の
家のダイニングでも、
その次も、
今も
ずっと使われている。

家みたいに大きくて頑丈だと
思っていたものの方が
先になくなって
自分の方が残っている。

まあ、わたしも
いつかなくなるんだろうけど。





も-けい【模型】

- ① 実物の形に似せて作ったもの。「機関車の模型」
- ② 鑄造のための原型。鑄型(いがた)。

デジタル大辞泉(小学館)より

辞書を見てみると
このような意味が
ありますが、
このWSでは、
①の意味として
解釈します。

まず、タイトル中の
「模型」という言葉だけけど...

プラモデルとか
鉄道模型とか
建築模型とかを
思い浮かべる人も
多いかと思えます。

入念に読んで
「おばけ」って
おぼえておいてね...

OBAKE

①の意味の場合、
鉄道模型のように
実際に存在する物を
模してつくられることを
指すこともあります、

「完成品を作るための試作品」のように
(例えば美術作品のマケットや建築模型)
概念上のものが物質化(造形化)されたものを
指すこともあります。

何らかの
礼拝施設だ…
たぶん

アニメに登場する
ロボットのプラモデル
などのように、
実在しない物の
「模型」も存在します。

また、お台場ガンダム
のように実在しない物の
1/1スケール模型も
存在します。

白い光で
よく見えなかね

これアニメ原作じゃない…

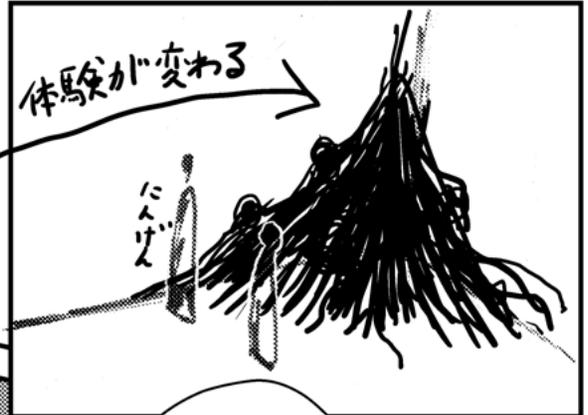
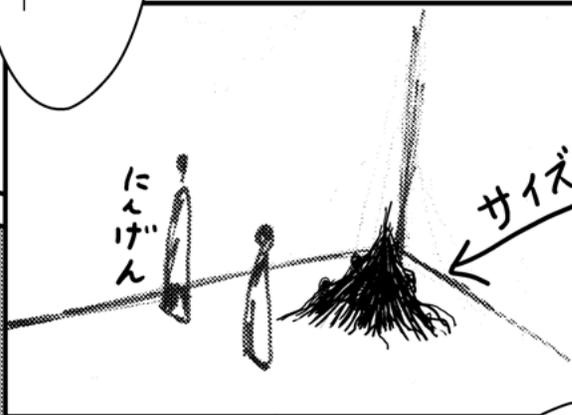
このWSでは、美術展示がしばしば「インスタレーション」としてかたちづけられることに注目します。

むしろ、これは
インスタレーションの
絵

作品自体が鑑賞対象になる場合において、作品の価値は、それが置かれる建築や展示空間と紐づかないはずですが、

インスタレーションは、特定の空間内に置かれる（インストールされる）ことで、作品の体をなすため、作品自体の価値が展示空間と紐づいていると言えます。※1

地域リサーチベースの作品がその地域の施設などで展示されることについてもこのWSの問題意識の範疇ですが、これについては別のプロジェクトで大きく取り扱っています。



インスタレーションとして作品を制作する場合、展示空間に合わせてサイズを決定し配置します。※2

鑑賞者が空間内で体験できるスペクタクルは、空間に合わせた配置やサイズ調整によってコントロール可能です。

例えば、映像を使用する場合だとプロジェクションするサイズはかなりの自由度で変更可能である。

※2 什器と認識される部分も含む

※1 近代以前の宗教的装飾物等と違う点として、作品の内容が建築物の思想と必ずしも同期していないことや建築物にずっと備え付けられるのではなく、一定期間の後、撤去されることなどの相違点があります。

コンセプトの
ノンスケール模型
(仮の姿)



しかし、そういった造形的な
テクニクによって発生する
スペクタクルは、作品の本質である
コンセプト(概念)と
紐づいた関係でしようか。

コンセプト(概念)の仮の姿を
造形的テクニクによって
一時的に現出させているものが
インスタレーションだとしたら、

これを「コンセプトのノンスケール模型」
であるといふふうに捉えてみることは
可能ではないでしょうか。

↑
実在しないものを物質化したものを「模型」と呼ぶことから派生した考え

そっだね

うーん

例えば...

逆に作品には
定まった大きさなど
存在するのだろうかね？

コンセプトの
ノンスケール模型



既製品がそのまま置かれるような
美術展示は、それ以外のサイズがありえない
という意味で「1/1スケール」であり、

置かれた《物》が本来の文脈と
離れた場所に置かれることで
本来の機能を果たさなくなり、

別の何かの「^{概念}模型」として
機能していること
捉えることもできます。

スウ

スウ



このWSは、本来「1/1スケール」なものが「1/1スケール」と呼べる状態とは、
どっという状態なのかを思考し、

コンセプトの
1/1スケール模型



サイズ調整によるスペクタクルの
コントロール(造形的な工夫)以外の理由で、
展示物のサイズが決定されるプロセスを
体験するものです。

ぜひ参加して
みて下さい
です...

応募条件

提出物

「1/1スケール模型としての美術展示」というテーマに基づいた
「1/1スケール」(実物大)の模型(立体物)

- ・ 「模型」の定義は、マンガ中の説明のとおりです。
- ・ 「1/1スケール」の定義は、参加者によって行うことができます。
その根拠または理由を示してください。
- ・ 提出物は、展覧会会期中の会場に展示されます。
- ・ 提出物は、返却されます。
- ・ 1人につき応募点数の制限はありません。

※ 平面上で「1/1スケール」を表現したものは、条件にあてはまりません。

※ ギャラリーの規定に違反するものは展示できません。(生ものや虫など)

◀ 次のページへ続く

▶ 応募の流れ

・ 申し込みフォームに記入



- 氏名・連絡先・提出物の説明(コンセプト・サイズ)・その他備考を記入
- ← こちらのQRコードから申し込みフォームにアクセスできます。
http://gallery.kcua.ac.jp/projects/20180207_id=12878#ja
2018年 2月7日(水)募集開始



・ 作家からメールで返信があり、提出・返却方法・提出日を決める

- 提出物の説明について質問をさせていただくことがあります。
「1/1スケール」の定義について、応募者と作者の間で合意がとれた場合、次の段階に進みます。



・ 〈物〉を提出



・ 提出物が展示される 2018年 4月7日(土)–5月20日(日)

- 会期前に提出された〈物〉は、展覧会開始時から展示されます。
- 会期中に提出された〈物〉は、毎週土曜日に展示会場に追加されます。
※追加日が前後する場合があります。



・ 提出物の返却

▶ 展示方法

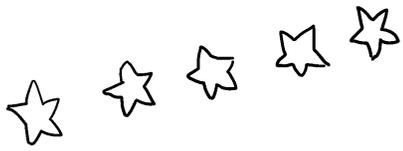
提出物をどのように配置、設置するかは指定できません。

※準備期間中、会場の広さや壁・天井・床等の色・材質についての質問には答えられません。

▶ 参加者 meetingの開催

会期中、展覧会場にてワークショップ参加者による「meeting」を行います。
(可能な方のみ／期間中毎週土日のどちらか)

それぞれ「1/1スケール模型としての美術展示」というテーマに対しての
アプローチを発表し、意見交換を行います。



この展示で私は、マンガの
冒頭でも登場した
ダイニングテーブルと私の生家の
1/1スケール模型を展示します。

ほかにも色々ありますか

もう取り壊されてしまて、寸法がとれない
ものを当時の写真などから割り出し、
サイズの再現を試みます。

このように、目の前に存在しないものに対し
何らかの方法で、実物大を設定する。
というテーマでいくつかの〈物〉を出します。
ほかにも、「死体」とか「複製」などの
テーマのものもあります。

ちなみに、
冒頭のダイニング
テーブルは、
実際にモデリング
したもの

「美術展示」は、特定の場所に作品などが
置かれることで成立しますが、
2016年に(私も実行委員の一人として)開催した
「Open Diagram」という展覧会以降に、
「特定の場所という設定」と「展示」についての
テキストを書きました。今回の展覧会とは、
別のプロジェクトですが、直接的に関係するもの
なのでよければご覧ください。

ここで読めます。→

